長崎県指定無形民俗文化財

佐世保のヤモード祭り

ヤモード祭りは、佐世保市の淀姫神社 (松原町 38 番地 1) に伝わる民俗行事です。毎年１月２６日に行われ、淀姫神社初祭りとも呼ばれます。その年の稲作を始めるにあたって、五穀豊穣と家内安全を祈願し、冬の間山の神として山に戻っていた田の神を、里に迎えるために行われます。矢峰町と松原町から選ばれた青年２名が「ヤモード」となって、一連の行事をつかさどります。「ヤモード」とは、「山人・やまうど」が訛ったものといわれています。

祭りの目玉は神社の一の鳥居に掛かる「だいちゅうれんなわ」と呼ばれる大注連縄の架け換えです。大注連縄は長さ８m、重さ３００kgにも及びます。

【見学のお知らせ】

例年１月２６日に開催されます。若干前後する場合がありますので、詳しくは下記までお尋ねください。

◆問合せ先

佐世保市教育委員会　社会教育課
TEL (0956)24-1111

注連縄づくりの様子

極寒のなか禊ぎを行うヤモード

大注連縄は、前年の稲わらを使って矢峰町、松原町でそれぞれ作って出来栄えを競い、それを縒り合せて作ります。大注連縄は芯になる荒縄にわら一束の根本をくくった「チョンチョコベ」と呼ばれるわら人形をたくさん差し込み、回転させながら荒縄を巻いて締め上げます。

注連縄作りが始まったころ、ヤモードは禊ぎを行います。極寒のなか、打ち鳴らされる太鼓に勇気づけられ、池に飛び込んで身を清めます。禊ぎを終えたヤモードは、水に浸した米を石臼と石杵で搗き固めた粢を作り、神前に供えます。このとき口をきいてはならず、榊の葉を咥えなければなりません。

大注連縄が出来上がると、全員で運びだし、鳥居に架け渡します。鳥居の上にはヤモードのみが上がることを許されています。注連縄が掛かると神官による御払いと餅まきが行われます。これが終わると神社内で平戸神楽 (国無形民俗文化財) が奉納され、簡単な酒宴と食事の「なおらい」が行われて、約８時間に及ぶ祭りは終わりを迎えます。

粢づくりの様子

平戸神楽の奉納

行事の起源は不明ですが、少なくとも江戸時代前期には行われていた可能性があり、古い様式の民俗行事を今日に伝える貴重な行事として、長崎県の無形民俗文化財に指定されています。